

*** 一戸直蔵の観測野帖にあったハレー彗星のスケッチ**

一戸直蔵の変光星の観測野帖が川崎青少年科学館から国立天文台天文情報センターアーカイブ室に譲渡されたと、アーカイブ室新聞 273号で紹介した。

一戸直蔵は明治42年(1909年)頃、東京天文台の三鷹村への移転に異を唱え、赤城山山頂への移転を主張したり、台湾の玉山(新高山)に天文台建設計画を発表するなどした。これらの先駆的な考えが、当時の寺尾寿台長と対立するところとなり、東京天文台を追われた人物である。すでにその頃、標高4000mを超える高山への天文台建設を主張したことから、「すばる」の原点は一戸直蔵だというものさえいる。

今回、一戸直蔵の観測野帖を捲っていて、彗星の核の部分のスケッチがあるのを発見した。1910年4月頃のスケッチなので、すぐにハレー彗星のスケッチであることに気がついた。この事実には佐久間精一氏はとっくに気がついており、2009年12月の「国立天文台の歴史的アーカブスに関するシンポジウム」でそのことに触れられていたようである。

写真1が、そのスケッチが書かれている観測野帖No.6である。

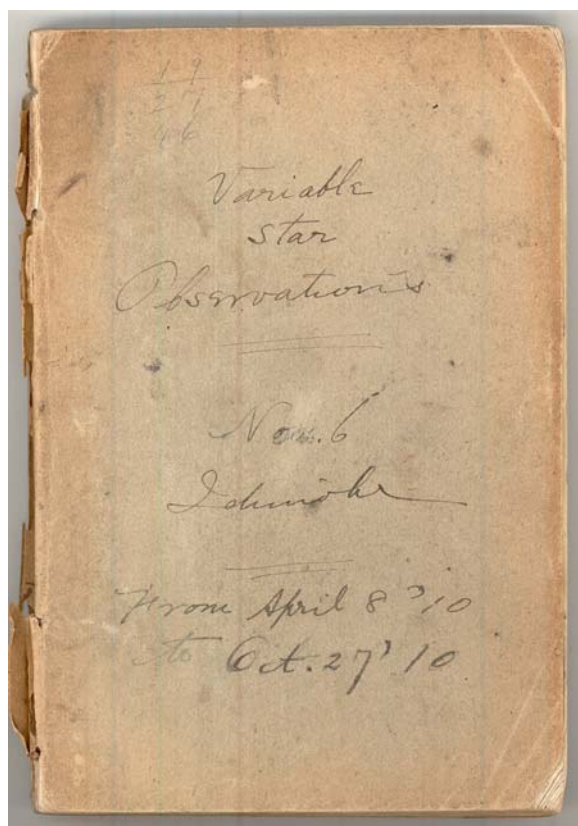


写真1 一戸直蔵の観測野帖(1910年4月～1910年10月)

このNo.6と書かれた1910年4月8日～1910年10月28日の観測野帖の表紙裏に張られ

ていたスケッチが写真2である。ハレー彗星の近日点通過は1910年4月であるから、このスケッチはハレー彗星のコマのスケッチであろう。そして観測野帖を捲っていくと他に4枚のスケッチが現れた。

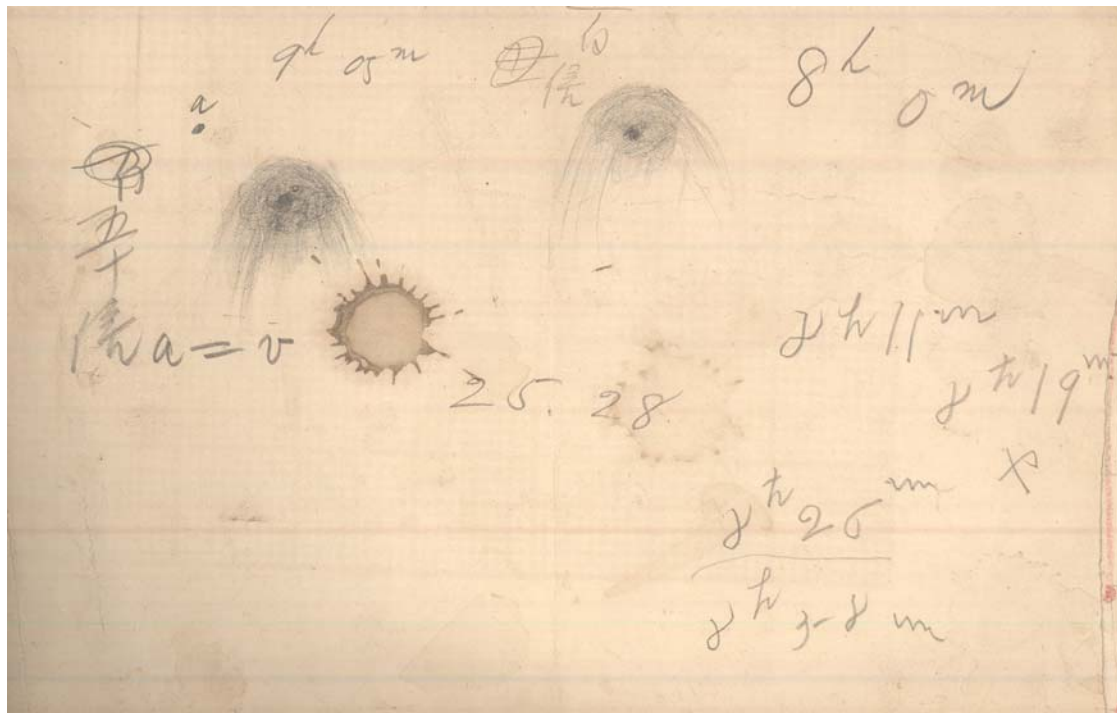


写真2 表紙裏に貼られていたハレー彗星のスケッチ

この表紙裏に貼られたスケッチには日付がない。他の4枚には観測した日付が入っており、1910年5月30日、31日、6月6日、6月7日のスケッチである。

写真3が5月30日のスケッチである。

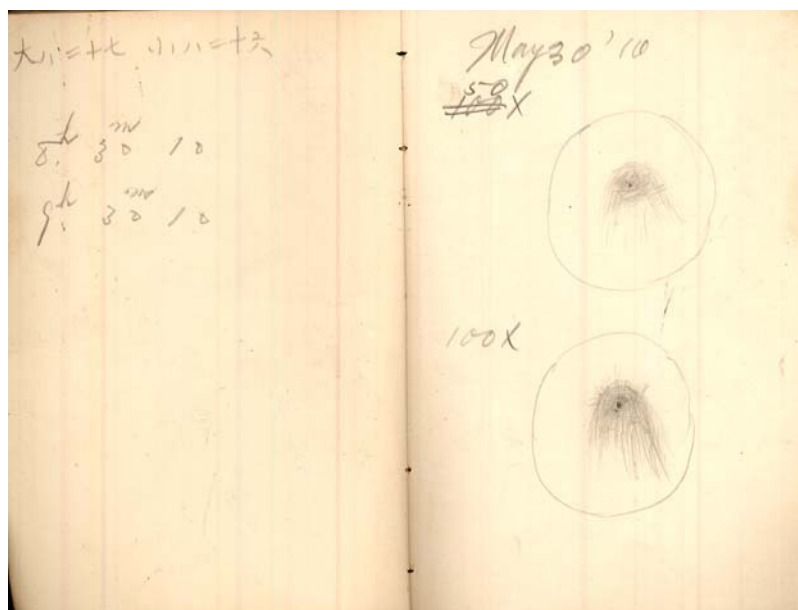


写真3 1910年5月30日のスケッチ

表紙裏のスケッチと1910年5月30日のスケッチは50倍と100倍の二つが描かれている。
写真4は1910年5月30日の50倍のスケッチ、写真5は5月31日の50倍のスケッチ、写
真6の6月6日のスケッチは100倍、写真7は6月7日のスケッチ、倍率のメモがない。

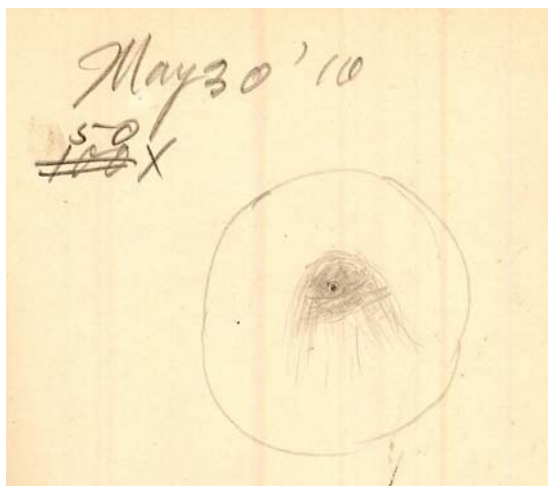


写真4 5月30日のスケッチ

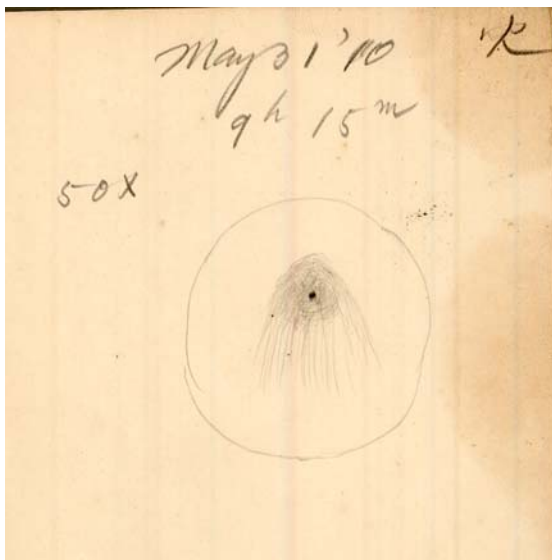


写真5 5月31日のスケッチ

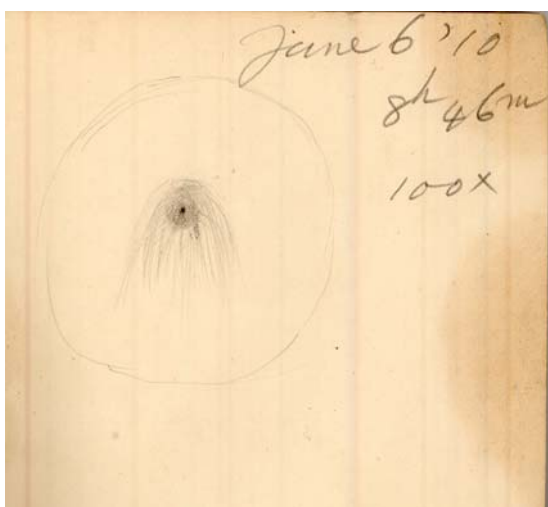


写真6 6月6日のスケッチ

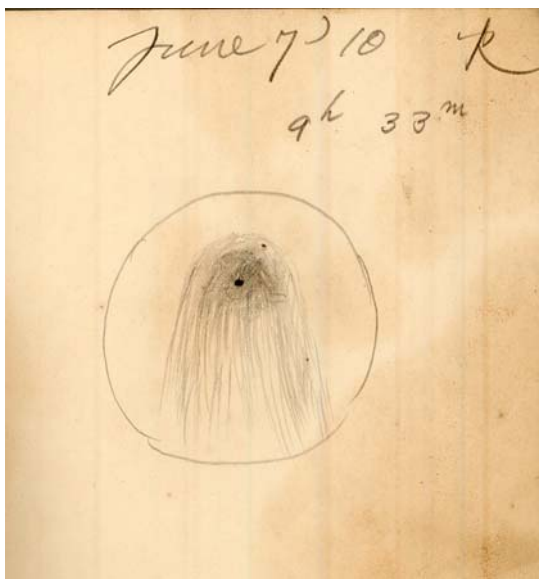


写真7 6月7日のスケッチ

今年は2010年、ちょうど100年前のスケッチが発見されたことになる。